

# ゾーンボディ

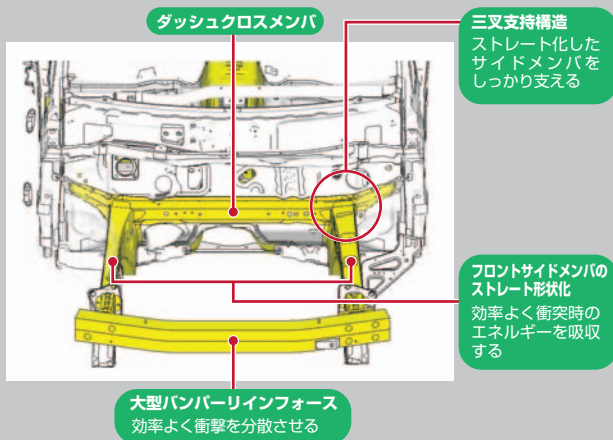
日産は、万一の「衝突事故」を想定し、相互の被害を最小化するゾーンボディの進化に力を注いでいます。日産のゾーンボディは、「クラッシュブルゾーン（衝撃吸収ボディ）」で衝突のエネルギーを吸収し、「セーフティゾーン（高強度キャビン）」で生存空間を確保する機構になっています。

各国の安全基準に適合させるだけでなく、実際の事故分析結果により日産独自の基準を設定し、その構造を常に進化させています。

## 「ティーダ」におけるコンパティビリティ対応ゾーンボディ

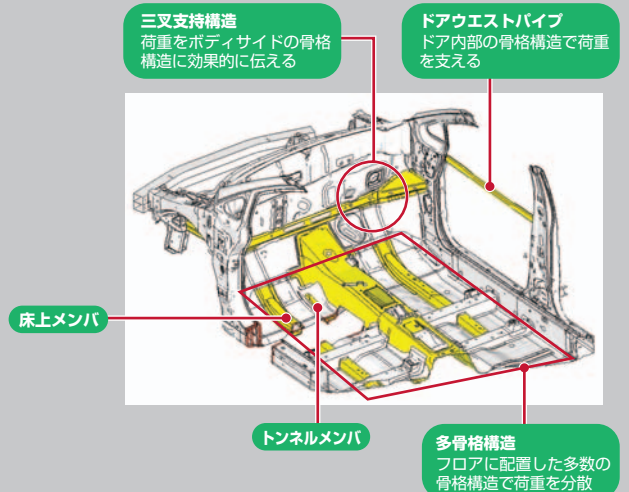
### クラッシュブルゾーンの進化

バンパーリニアフォースの大型化により衝撃を分散させ、ストレート化したフロントサイドメンバを三叉構造でしっかり支持し、「クラッシュブルゾーン」の衝撃吸収率を向上させています。



### セーフティゾーンの進化

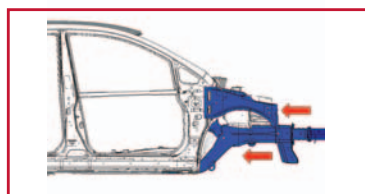
フロントサイドメンバ支持構造の三叉化、フロアの床メンバ、トンネルメンバ等からなる多骨格構造化、ドアウエストパイプの設定により荷重を分散・支持し、強固な「セーフティゾーン」で乗員を守ります。



## 進化したゾーンボディのはたらき

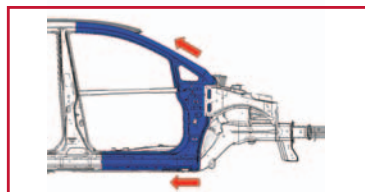
下の写真は衝突の状況を連写したものです。

衝突第1段階



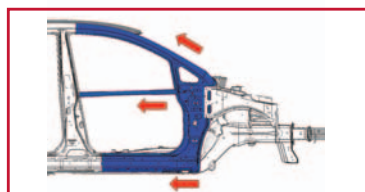
フロントサイドメンバ等で衝撃を吸収

衝突第2段階



Aピラーとサイドシルで荷重分担

衝突第3段階



ドアウエストパイプが荷重支持